日 乗 連 ニ ュ ー ス
ALPA Japan NEWS
www.alpajapan.org Date 2008.04.28 No. 31 – 40

発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5－11－4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

63rd IFALPA Annual Conference, Mexico City

全体報告

4月18日～4月22日メキシコシティに於いて、IFALPA加盟53協会351名が出席し第63回IFALPA総会が開催されました。日本からは、IFALPA RVP NOPである石山勉機長初め、日乗連7名と日航乗員組合2名が日本の乗員を代表し参加しました。今年はIFALPA創立60年、ASPA (Asociación Sindical de Pilotos Aviadores de México) 創立50年ということもあり、記念すべき総会となりました。この全体報告に続き、今年のIFALPA総会で議論され、決定された各委員会のTopicsなどを順次お伝えしていきます。

スペシャルゲスト メキシコ通信交通大臣 Luis Téllez 、ICAO 理事会会長 Roberto Kobeh González、メキシコ航空局長、ASPA 会長の紹介後、IFALPA 会長 Capt. Carlos Limon が「IFALPA は、国連機関 ICAO と世界最高レベルの航空安全に長年貢献してきた。今後も 97 カ国 10 万人の会員と協調し、幅広い分野において新たなチャレンジをして行く」と挨拶がありました。
メキシコ通信交通大臣は、総会開催の祝辞を述べるとともに「メキシコの観光と経済発展のために航空運送は重要である。今後もパイロットグループとともに、航空の安全と施設の整備、保安体制の強化など、積極的な政策を行っていく」と力強く表明しました。

年次報告の中で IFALPA 会長は、China RVSM の導入に IFALPA が積極的に関わってきたこと、また JAL706、JAL907 にふれ航空の安全を脅かす ICAO ANNEX13 を無視した「懲罰文化」を、一刻も早く改善できるよう努力を惜しまないと述べました。
ICAO の改訂に合わせ（MPL, Maximum License Age など）IFALPA も各委員会が協力して Policy 策定することが急務であること。またパイロット不足、アライアンスと LCC の台頭、燃料の高騰、環境問題、技術的な問題、労働問題等、IFALPA は情報の共有と解決のための教育を、各分野にわたって提供するので積極的な参加を望むと述べました。

Mexicana CEO Manuel Borja Chico

メヒカーナ航空の社長がIndustrial Seminarで、航空業界におけるグローバリゼーションについて講演しました。規制緩和により供給量が増え、また燃油費の高騰により世界中でエアラインは存続を危ぶまれるレベルに来ている。人件費よりも燃油費が経営の問題と捉えている。中国、インド等の台頭により、経済地図が20年間後には塗りかわっている可能性がある。グローバリゼーションは後戻りすることは出来ず、弱くなった企業の吸収合併は避けられない。ITなど新しい技術を駆使して、効率的で利益を上げる構造に変えて行かなければならない。最後に、働く者と一緒に未来を共有したいと述べました。

IFALPA pilots declare full support for BA pilots in ‘Open Skies’ dispute

BAの子会社「OpenSkies」立ち上げに対して行なった、BA Pilotsの争議行動を、IFALPAは満場一致で支持しました。この行動は、90%の投票率で86%の賛成を得ており、BA Pilotsの就業機会を否定するだけでなく、Job Security、賃金、および労働条件への脅威を意味しています。3月15日行なわれた抗議行動には、1200名を超えるBA Pilotsとその家族、またOne WorldのAA Pilotsも参加しました。「OpenSkies」は、BAの資本、航空機を使用し、乗務員はBAに所属しない者

で運航する計画であると報じられています。BA Plane – BA Pilot と大キャンペーンを打っており、多くの支持を得ています。

AA委員会がAAP委員会に名称変更

事故の再発防止がAA委員会の主目的であるため、AA CommitteeはAccident Analysis and Prevention Committee（AAP）と名称変更することが決まりました。日乗連もそれに応じて、委員会の名称変更を検討していきます。

New Member Associations

今回のIFALPA総会で、アンゴラのAssociação Dos Pilotos De Angola（200名）、ドミニカ共和国のAsociación Nacional de Pilotos de la Republica Dominicana （100名）、モンテネグロのMontenegrin Air Line Pilots Association （39名）、ボスニアヘルツェコビナのAssociation of Air Line Pilots Bosnia and Herzegovina（15名）4協会のIFALPA加盟が新たに承認されました。これで IFALPAの加盟総数は2008年4月21日現在で101協会（約10万人）になります。

IFALPA 会費の値上げ

Administration & Finance は、2009 年の会費を 1%値上げすることを提案し、総会で承認されました。理由は、IFALPA Training Program (Safety School, ALR, Local Runway Safety Team, Negotiations Seminar)の活発化による予算確保です。

China ALPA 会費の未払い

中国の航空大臣が約束した、2005、2006、2007年のIFALPA年会費支払いは、2007年度には行なわれませんでした。しかし今回、中国政府の許可が出次第、2005年から2007年度分と2008年の50％合わせて£40,000の支払うことを新たに約束しました。

ちなみに中国には現在14000人のパイロットがおり、そのうち2000人がChina ALPAに加盟しています。毎年2000人ずつ新たにChina ALPAに参加する意向です。

65th IFALPA Conference in Marrakech, Morocco in 2010

モロッコのマラケシュと、カナダのバンクーバー2都市の誘致合戦となりました。
Hospitality Suiteにおける趣向を凝らした演出、視覚に訴えるPV（プロモーションビデオ）など各協会フェアプレイをしていました。アフリカ、中東地域の脆弱な航空施設、管制などIFALPAと共同で安全性を高めたいというモロッコ（総会開催費用は観光担当大臣とRoyal Air Morocco CEOのお墨付き）と、IFALPAでの実績、貢献度、総会開催費用は間違いのないカナダとの選挙において、ALPA Japanは、IFALPAのThe highest level of air safety worldwideに基づき、将来性に期待を込めてモロッコに票を投じました。 投票の結果､モロッコのマラケシュで2010年IFALPA Conferenceが開催されることに決定しました。

また、2011 年には、キプロス、タイ、シンガポール、韓国が、2012 年にはフランスが IFALPA 総会を招致しており、今後の動きに注視が必要です。

Japan ALPA Scholarship Fund

Gala DinnerにおいてLotto（くじ引き）を開催し、その売り上げをJapan ALPA Scholarship Fundに計上しています。Boeing, Airbus, Corona, Parc, USC, ASPA, NZ ALPAが賞品の提供を行いました。今年は、封筒に記名して寄付金を入れくじ引きを行いました。寄付金は$4700となり、発展途上にある協会の今後の技術力向上に貢献する事が大いに期待できます。

来年 2009 年の 64th IFALPA 総会は、NZ ALPA がホストとなり、ニュージーランドのオークランドで行われます。